

## “ノコギリヤネのある風景” の発見

(断章 “ノコギリヤネのある風景 ” その1)



▲のこぎり三 ?

「過去のこの日」より

- 2006. 6. 17 : ワタシの “ノコギリヤネのある風景” の発見
- 2012. 2. 4 : 「産業遺産」としての “ノコギリヤネのある風景”
- 2017. 11. 3 : “ノコギリヤネのある風景” のメタモルフォーゼ
- 2018. 12. 15 : 消えてゆく “ノコギリヤネのある風景”

1. 2006年6月17日：ワタシの“ノコギリヤネのある風景”の発見



▲「愛の旅人 三岸節子と好太郎」（朝日新聞週末別冊版 be）



## 2. 2012年2月4日：「産業遺産」としての“ノコギリヤネのある風景”



▲「織物散歩道」(2005、尾州地域新世紀産業振興事業委員会)



▲「のこぎり屋根と毛織物」(2012、一宮市西歴史民俗資料館特別展)



### 3. 2017年11月3日：“ノコギリヤネのある風景”のメタモルフォーゼ



▲「のこ座」案内（第1回～第14回）

4. 2018 年 12 月 15 日：なかなか遺産認証式／消えてゆく“ノコギリヤネのある風景”



▲「市橋毛織」と「升善毛織」の残したもの



## ○エピローグ

“ノコギリヤネのある風景”を発見した時、それが“消えてゆく風景”であることに気づく。

ワタシの発見した“ノコギリヤネのある風景”も知らないうちに消えていた。

これから、多くの“ノコギリヤネのある風景”が急速に消えてゆく。

ノコギリヤネによる新たな生活のカタチを「カッコよく」示してくれた「スパーブ」も、河川計画の関連で、十年以内に消えてしまうという。

“ノコギリヤネのある風景”は、未来永劫に残るものでもないし、そうすべきものではなさそうだ。

コンテナポラリーかつ創造的なテーマである。

“ノコギリヤネのある風景”を掘り下げていきたいと思う。



▲「スパーブ」という“ノコギリヤネのある風景”